京都帝國大學經濟學會

經濟論叢

第十四卷　第三號

大正十一年三月一日發行

論叢

最低生活費課稅說を駁す・・・・　法學博士　小川鄉太郎

マルクス氏餘剩價値說の評論・・・　法學博士　田島錦治

戰國の都市・・・・・・・・　文學博士　三浦周行

小作制と小作法・・・・・・・　法學博士　河田嗣郎

我國に於ける國民所得の發達・・・　法學士　汐見三郎

經濟道と經濟術・・・・・・・　法學士　作田莊一

時論

我邦の相續稅を論ず・・・・・・　法學博士　神戸正雄

說苑

地學觀社會學說に就きて・・・・　法學博士　財部靜治

リッケルトの價値體系・・・・・　文學博士　米田庄太郎

雜錄

エルンスト、フリードリッヒの經濟階段說・・・・　經濟學士　黑正巖

說苑

地學觀社會學說に就きて（一）

財部靜治

女を物色して、その美醜を品定めするは、元來女人そのものに就きて然り、而も亦京都美人に加茂川の自然を配するかために、その美の特色は、特に發揮せらるゝか如き心地す、之を一般社會生活に及ぼして考ふるも、亦之に似たるものあり、否自然との關係一層切實なるものあり、素より社會そのものは、現今多數社會學者の唱ふる如く、一の心的事實とすべきものあらん、一面又極端なる人文地理的解釋、又は地理的定道論を試み、自然を以てあらゆる生活現象の、最終原因たらしめんとするは、非とすべきものあらん、されど社會の存在は、自然條件の極めて狹き、動搖圈內に於てのみ、之を續け得べきの（試みに夏季の平均溫度、平年より二割高かりしものとして、その社會に及ぼす影響、何たるべきかを想像せよ）一事より推すも、自然の社會に及ぼす影響、偉大なるべきを想はすんは非す、然るに本邦社會學界否一般學界を通覽するに、予輩寡聞なるかためか、人文地理的研究頗る振はざるを感すること久し、そは兎も角とし、近日偶々 Fausto Squillace, Die Soziologischen Theorien. 1911 を繙けるに、この方面の研究評論のために、一章を費やせり、同感の士なきを

斯せすと想ひつゝ、今之を紹介することゝせり、

一

社會學的思惟の影響は、地理の上にも亦現はれ、かくて社會地理 Soziale Geographie, Soziogeographie (Demolins) 又は人文地理 Anthropogeographie (Ratzel) と呼はれ得へき一新學派又は學說を生したり。

現今佛蘭西に於て、此派の著しき代表者たる Demolins は言へり、その學風の基つく所は、Le Play にありと、Le Play の研究方法に鑑み、部分的には又氏の社會現象分類上、土地と人口とを社會の基本となせるとに鑑みんか、その研究を社會地理に、敷ふるは差支なからん、されと氏か生產方便の如何により、社會の紀別(ペリナーデン)を試みたること、又その學說の基調に、照して考ふるに、氏は寧ろ經濟學的社會學者と謂ふへし、蓋し氏によるに、人間界の全發展は、勞働形態及種々の所有權形態を、土臺とすとなせはなり。

社會地理派は寧ろ De Tourville* Demolins により建てられたり、特に前者はその研究方法の、部分を詳說したり、卽ち Le Play か說き出せる諸原理を、完成し延長し又修正したり、實に斯人の經營せる、「社會學」Science sociale 學校及同名の雜誌中、社會の分類につきて取扱へる所も、家族、諸州、特に又社會に關する諸單行本も、(L' Ecole de la science sociale 及雜誌 La Science sociale は、一八八六年 De Tourville 及 Demolins により、巴里に建てられたり、 emolins は別に尙一八九九年に、第二の學校を Roches に建て、Le Play により始められ、De Tourville 及

* De Tourville (一九〇三年死す)の社會地理的大作は、一八九七乃至一九〇三年間の、幾多論文より成れる L' histoire de la formation particulariste なり、後にその著書名を L' origine des grands peuples actuels, Paris 1907. とす 尙 Melin, De Tourville et son oeuvre social, Paris '07. 參照

Demolinsにより、修正されし方法により、地理を教ゆ）* Le Paly による社會現象の分類、又は名目により影響せらる。**

二

De Tourville かその該博なる研究を、傾倒せる問題は、家長制家族か如何にして、個別家族に遷り行けるかに存したり、社會地理としては、凡て過去現在及未來に於て、優勢なるものゝ起原を、その殊異につき洞察せんと、努むへきことを解する人にとり、こは極めて重要なる一問題なり、かくて著者は前に示せる、著書中（二〇四頁）に言へり「凡ては嚴密に、右特殊家族の歷史、並にその諸施設の發展に則る、北海の沿岸にありては、一帶の沿海漁業により渡世すへき、散在的住居地立てられ、又かゝる住居地をして、優勢ならしむへく、サクソン平野の瘠地にありては小村立てられ、等しく又その小村土着制を、優勢ならしむへきも、萊因河両岸の沃土にありては大村建てられ、又その大村制を、優勢ならしむへし」と。

されと實際上生業、社會生活等の如何が、常に何により、決定さるゝかを考ふるに、そはその場所の性質如何によりてのみ、決せらるゝことなし、蓋し同一の土地に、共產主義の組織を採れる民族も、個人主義の組織を採れる民族も、存在し得へきこと、假令は共產的なりしアングル人か共產的ならさりしサクセン人に、征服されたるの史實に就き、之を伺ひ得へきものあれはなり一形態か他の形態により、征服されたるは、人種、特殊特質の强大、政治的綱紀、優良なる適應能力と言ふが如き、他の諸原因によることあり、而して是等諸原因により、優勢及勝利を授くるは

* Vgl Demolins, Les français d' aujourdhui (Auhang); L'Education nouvelle; L'Ecole de Roches; Journal de l' Ecole de Roches.

** De Tourville, La nomenclature sociale. (Demolins, Les français d' aujour d'hui ニ收錄サル)尙社會地理ノ方法ニ就キテハ Squillace, I problemi constitu zionali della Sociologia p. 681 ff. 參照

別に形勝の地を占むるかために、然るにあらず、形勝の地あるに拘はらず、然りとすべし、現に De Tourville も言へり、「社會學にありては、一民族が土着せる、國土の性質如何を以て、何等その意義に富めりとすべきものなし」（前掲書二四八頁）「されは同一民族は、千有餘歳を隔ても、尙同一計畫を再興せるの例あり」と。（同二五〇頁）

三

Demolins* は右の如き研究を、一層弘く及ぼすことゝし、幾多の大民族研究上、社會地理の諸原理を應用して、種々の社會型を解釋したり。

氏の所見によるに、人種も亦地理的環境の一產物たり、されと人種の複雜なるは、別に又他の原因により、促されすんはあらす、卽ちそは諸民族か、その移住上採用せる、方向如何によりて然りその方向變するに從ひ、生產、勞働の仕方、社會型も變す、從ひて地理は人間社會構成の、基本因子たりとせり、かくて Demolins は古代以來の諸民族か、その移住上踏破せる、大道如何に本つき、古代諸民族の社會型を解釋し、又再建せんとしたり、假令は高原を貫通せる道は、最も粗野なる社會型、最も原始的又本元的なる人間型、卽ち氏か「史籍全缺」geschichtslos と呼へる、社會型の一つを生すとせり。

中央亞細亞高原の大高度は、その氣候事情を左右し、之と關聯して、又同高原の二特徵、詳言すれは草の生茂あること、その他あらゆる作物栽培の見込なきことを決定す、かくて一勞働形態としての牧人勞働、並に特殊の一動物として、高原に最も適せる馬は、自から惹起され、その馬

* Demolins, Les grandes routes des peuples. Comment la route crée le type social (Les routes de l'autiquité)

あるかために、人は迅速なる行進を遂げ、家族の列伍を組み、引いて又遊牧民族の、家長制的綱紀を採り得へきことゝなり、又高原に散在し、單に巡禮によりて、宗教的統一團を結ひ、防禦のために軍事的統一團を結ふへき、多數家族相互間の交通を、容易ならしむることゝなれるより、馬あることは人々にも適切なり、同產業は又民族の資源、及欲望とも關係あり、卽ちそは馬によりて授けらるへき、乳、肉、皮、毛を土臺とす、而して原始的遊牧民族にありては、是等の物品は、一定條件を充たすの要あり、詳言すれば容易に運搬され得へく、簡單又容易に作出され得べき物たるの要あり、かく同產業は之を營む人々の、欲望に適應するを以て、かの所有權形態としても、家族形態としても、高原生活に伴ふへき、共產主義的一秩序は、等しく又その產業により成立すへし、蓋し何人も土地の一部を、自分一人の物たらしむることの、利益を認めされはなり、土地は家族にとり、不足を告けしめさるの要あるを以て、その利益とする所は、勞働能力ある多數子息を、唯一の家長制的共同體に、總括するにあり、同一理由に基つき、高原生活は家族以外に、中央權力を發展せしむることなし、散在しつゝ有牧生涯を送れる、一民族にありては、統一的政府を立つること、不可能なれはなり、その外平和維持は、一政府の目的とすへき所なれと、そは平和か家長の威嚴により、保たるゝ所にありては、別に政府として有し兼ぬへき一目的なり、而して共產主義的綱紀は、二影響を伴ふ、苦しき勞働を缺くこと、並に人々個別の自發心を抑塞することは之なり、されと高原にありては、通常の社會的群（家族、地方區體）以外に、異常の聯合（隊商）も成立す、隊商も亦外界により左右せらる、そは多數人より成る、危險を冒しつゝ、

長距離を過きるの要あれはなり、又進路を示し、秩序を維持すへく、遭遇せる諸民族と、良關係を結ふへき、一嚮導者により率ゐらる、このことたる重要なる一事情たり、蓋し之れかために、家族以外に統一的一權力を、立つるの原則起れるを示せはなり、この武裝せる隊商は、侵略を遂くるに至適せる力たるも、その力を維持するには充分ならす、一時の必要に促されて起りし、一時的聯盟なれはなり、從ひて蒙古人、韃靼人等の如き牧畜民族は、決して永續的統治及開化を、確立することなかりき、されば牧畜民にして、假りに草原の二大道を、發見し得さりしものとせんか、その民族は蔓延し得さりしならん、二大道とはドナウへの一路その一なり、コンスタンチノーペルへの一路その二なり、されと社會地理により敎へらるゝが如く、社會事實を地學的に解釋するの態度は、茲に至りて最早その保持し難きを、認識するを得へし、蓋し右牧畜民の二大流中、後世に至り土耳其人として、現はれたる分は、漸次牧畜民より農民に、變はらさんを得さりしを以てなり、Demolins はこの變遷を、諸事情の壓迫により、換言すれば高原の資源不足、その結果として必要上、栽培に從事せさるを得さりし事情により、之を解釋せんとせり、されと之を反駁せんかために擧け得へきは、高原かその地に散在して住める、稀薄の人口にとりても、狹隘に過くるを訴ふるの例多きこと、そは長年月を經て、人口著しく增加し、高原の大部分に作付を見たる、今日にても珍しからさるの、事情なること之なり、その外土耳其人以外の諸民族は、他の草路を發見し得たり、土耳其人と雖も、假りに事實上その故鄉に於て、不足を告けし郊野を、發見せんとするの衝動丈けに驅られ、コンスタンチノーペルへの移住を、遂けしものとせは、他

の草路を發見し得たらんと、なし得へきものあり、かの土耳其人か、特殊の膨脹力を有せるは、同民族か他の諸民族の境域に莅み、迅速に一大覇權を、握り得たるの事情により明かなり、Demolins は三因子により、之を解釋せんとせり、土耳其人はその容易に奪取し得たる、コンスタンチノーペルへ直路到達すへき、道を採りて進めること其の一なり、最終者としてその地へ、到來せること其の二なり、土耳其人は命令するに、馴れたること其の三なりと、されと就中始めの二理由か採用され難きは容易に看取せられ得へく、第三理由には異議を挿むへきものあり、Demolins 自身の所說によるも、高原に固有なる綱紀には、寧ろ共產主義及群居主義（グレガリスム）を伴へはなり。

東歐と西歐との間に、存在せる相違は、東歐か直接に又殆んと全く、牧畜民により拓殖されたるの事情に、その源を發す、而して一民族か踏み行くへき、道の選擇宜ろしきを得るの意義は深刻なり、同民族の社會型は、之により左右さるれはなり、されと一民族特に原始民族か、その移住上如何なる道を採るかは、その民族の意志により定まるか、將た之を定むるもの、寧ろその欲望にあり、かくて最もよくその欲望を充たさしむへき、道を選ふに到れりとすへきに非るか。

極北不毛の Tundra 地方にありては、他の一社會型形成せらる、かゝる氣候の下、生茂し得へき植物は地衣に限られ、又茲に飼はれ得へき動物は、馴鹿に限らる、然るに地衣は乏しきかために馴鹿あらは迅速又頻繁に、土地を換ゆるの要あり、その馴鹿は乳を授くるも、輕微に過きさるを以て、住民は之を補ふために、狩獵漁撈に當るの要あり、かく新しき勞働の仕方あるに拘はらす高原の共產的所有權及家族形態は、何等の變化を蒙ることなしと說かる、されと茲にも亦一反對

は起るへし、蓋し一の地理的環境及勞働の一仕方は、必然一の社會型を生むへしとせんか、是等因子に少しの變更ありても、亦之に相應せる社會型變化は、惹起さるへしとすへけれはなり。

右の如き狩獵民族か、侵入し得たる唯一の道は、北米へ通せしめし道たりき、そは北米か尙無人の地なりしかために然るか、或はその氣候その動植物界、幷にその資源の下、生存を遂け得たるかために然るかは、之を問はす、されと右の社會型は、その踏み入れる道の如何により、種々の變化を遂けたり、第一に米利堅牛 Bison の住める、南部無樹原又は大草原 Savanna or prairie を通すへき、道を採れるは、皮膚赤色の野牛獵民型を生めり、何故に之により、一牧畜民を生まさりしかに就き、之を釋明すへき理由として、馬なりしこと、水牛豐富なりしこと等を擧けしも、そは確かならす、右の皮膚赤色型は獵民として、家長制の家族を立て得さりき、而して力はこゝにその勢力を振ひたり、Demolins はこの例により、「一獵民族は自然の儘にては、一牧畜民に變せす」(前掲書一四四頁)との、社會的一大法則を、發見し得たりと信せしも、同法則は重要ならす、蓋しその實ありとするも、そは斷片的事例に過きす、又如何なる社會的變遷も、自然の儘にては起らす、各個人の意志によりても惹起されず、寧ろ常に民族の必要により、決せらるれはなり、之あるがために一民族は、變れる社會事情の下、必然その生存の仕方を變せしむ、されは諸社會形態の相對性を認め、その形態は土地及勞働の相違により、左右さるへきことを主張せる Demolins か、「社會學の現狀にありては、原人か如何にして、純獵民たり得たるか、その理由を解せす」(前掲書一四五頁)との、絕對法則を編まんとせるは、怪しむへし、諸民族諸社會形態の發展は、確定

不動にして、又何處にも一律なる模型により、遂げらるることなしとすべきは、社會學の一本元命題に非すや、兎に角右の皮膚赤色型は、閥族制の綱紀を立てて、家族群制綱紀の代りに供し、又その綱紀行はれしかために、老人及婦人の輕侮、公私生活の不定を促せり。第二に連山岩塊の間、大草原はその防護によりて、暴風雨の患なく、又水牛は常時又多數に、發見さるべき所に、その道を選へるは、その結果として狩獵は安固に、又訓練は大なるを得たり、從ひてこの新民群は協同も一層堅固たり、戰爭のための組織も良好たり、是等の事情は、墨西哥、秘露の如き大國を生めり、第三に等しく水牛獵を伴ひつつ、海上にその道を採れるは、地理事情の必要に迫られ、男子は狩獵漁撈戰爭に當り、女子は農耕のために、土着的協同を結ふに至れり、その結果は母方より、確立さるべき血統（母權制）及婦人の優越なりき。

他の一大社會型は、森林内に起れる、印度人及黑人の社會型なり、その動物界には、離群して棲息すべき動物あり、從ひて民族は出てて小獸狩りに當り、之かために社會關係に、及ぼさるべき結果としては、老人に對する若輩の優越、個人主義的精神、生存資料の貧弱、家族の亂離、定期移住の必要及困難を生む、之に反し土地所有は共同的たり、何人も土地を我物とすることを、利益となさされはなり、家族は最早家長制的たらす、政府は力を土臺として存立するを以て、殘忍にして專制的たり、永續性を缺く、小なる獵民は牧畜民の如き、傳播力を有せす、蓋し負荷乘用の家畜を有せす、その家族は分散し、人口には餘裕なきを以てなり、阿弗利加の道路も、亦林道に屬す。（サレト此點ニタキ、Demolins ハ Préville, Les sociétés africaines; leur origine, leur évolution, leur avenir.

チ引ケリ）

單純社會は自然の儘の土地産出物により、その由來を推し得へきも、複雜社會は開拓により、變更されたる土地と關係あり、是等の社會にありては、地方換言すれは外界の自然は、最早單純社會に對して、有せるか如き意義を有せす、人の勞働により、土地を變形せしむるかために、惹起さるへき一般特色は、同一の土地に於ける社會現象を、區々たらしむるにあり、そは無限に複雜なるへき勞働形態、及各個人の區々たる習慣より惹起さる。

最初の複雜社會型は、沙漠内の道により構成さる、卽ち沙漠内には、生存資料としての意義に乏しきも、負獸としては秀絶せる駱駝棲息せり、而して牧畜民としての勞働のみにては、不定を告くるを以て、之を補ふに商工業を以てす、特定の事物は缺乏を訴へ、他の事物に餘裕ある結果、販賣のための工業、商業のための運輸を必要ならしむ、この目的上隊商も亦構成せられ、その數も多く、又永續的なるの要あり、かくて又家族に比し、その人員には富むも、結束の力一層弱き、群としての部族 Stamm は起る、隊商はかくて一公權力を有せる、尋常又永遠の一綱紀となる、沙漠内の沃地にして、糧食供給所及商品貯藏所たるへきは、重大の三點に於て、社會組織に變更を及ほすへし、卽ち勞働は土着的となるも、農耕は商工業の如く振はさること、婦人の地位割合に高きこと（母權制）家族及部族共同體以外に、公權力構成さるること之なり、この社會型は何等安定なる、占據地を生まず、蓋し商業型は不定なり、安定を生み得へきは、農耕に限れはなり

他の複雜なる一社會型は、亞細亞大帝國の諸道に、興されたる支那社會型なり、支那は二道に

より拓殖されたり、その一は戈壁の沙漠を、通して來れる征服者にして、そは土着的勞働に遷ることを解せざりし牧畜民（韃靼人蒙古人等）より成れり、その二は道を西藏に採れる農民にして、そは貧弱なる商工業、貧弱なる農耕を伴へる、一社會型を成せり、動物不足せるため、他の資源を搜すの要あり、而もその資源は可なり貧弱なりしより、弱き一社會型を生ましめたり。日本の社會型は、支那の社會型に似たる點多し、されと國土の地勢山岳に富めるため、周約的勞働に慣らさるるの要あり、又個人主義及家長制の共同體を、採るの傾向は茲に發展せり。

東洋の社會形態にありては、家族及部族共同體重きをなせるも、西洋の社會型にありては、個人主義及一層包括的なる、共同體形態としての都市、重きをなせり、地中海浴岸地域は、海洋を土臺とせる諸事情と、土地及天産物の齊一なる、特質とにより決定せられつゝ、鮮明なる一持色を付せられたる、一單一地帶をなせり、卽ち此地域には異れる三地區、詳言すれは谷、海港及小高平地を含み、その三者は各別に、異れる一社會型を示せり。第一に谷の社會型をなせるは、Pelasger（希臘ノ最古住民）及 Kolc'is の住民なり、その平地は栽培し得へき土地より成り、又栽培は金鑛の搜索、開墾容易なりしこと、並に果實に富むへき、樹木栽培によれることにより、著しく扶翼されたり、是等の事情ありしため、又山間民族に對する防衛の目的上、堅固なる地方に據りて、協同するの必要ありしため、密實なる一の都市生活は起れり、その地方の特質上、野外に於ける輕易勞働、及輕快にして開けたる生活の影響として、建築上藝術上の諸能力、並に身體の美及調和を、啓發せしめたり。第二に海港社會型を代表せるは、Phönizier 及 Karthager なり、

Phönizier の原住地域は、アシリア及埃土大帝國の、附近にありしを以て、商業に便なりき、この社會型により示さるゝものは、家族共同體の分解、土地家族顧客に關する不定の增進、專制的性質を帶へる、國家共同體の優勢、永遠的殖民地統治を與すの無能等なり。第三に小高平地の社會型を代表するものは Albanesen 及希臘人なり、そは谷の社會型中より、獨立自主的たり、從ひて社交的ならさる人々、簡拔されたるものとして派生せり、土地は瘠薄たり、又農耕は婦人により營まるるかために、男子は富裕なる低平地に出てゝ、掠奪を事とするの風起れり、又道は往還に不便なるため。商業を發達せしむるに至らさりき、而して古希臘人は、右地中海沿岸三社會型全部の、一混淆を示し、羅馬人も亦然り、唯後若は共同體生活より、個人主義に遷らんとして、努力の最大緊張を示し、かくてその社會秩序全部は、個人の權利保護のための、一方便に外ならす。

（未完）